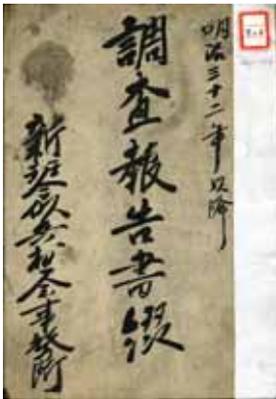


文化資料室ニュース

第3号 2007年8月・札幌市文化資料室発行

所蔵史料紹介

新琴似屯田兵村での水田の試み (新札幌市史編集員 榎本洋介)



『明治三十二年以降 調査報告書綴』

文化資料室が所蔵する新琴似兵村に関する簿書『明治三十二年以降調査報告書綴』(SKH - 174、内容は明治23年~32年迄)中に、「新琴似村水田設計二係ル理由書」という史料がある。新琴似兵村給与地は338万5000坪の内高燥地は88万坪、

後は湿潤地で開拓の見込がなかった。そのため明治23年安春川を開削して乾燥化を図った結果、多少の地積は開墾に着手できたが、その効果は小部分であった。明治26年から水田試作案が起こり実際に試験を行った結果は、良好であった。そこで広大な湿地を悉く水田としようとして昨年からその実施のために苦慮したが、多額の経費がかかるため遷延しているという。そして水田開削のために水源を発寒川と小樽内川(おそらく新川)として10本の用水溝を開削する必要があるとして、その設計概略を示している。

26年から水田をつくらうという気運が起こり、「昨年」からそれを実施に移そうとしているらしい。しかしこの史料には年月日が記載されていないため「昨年」が何時かも「理由書」が何時つくられたかも分からない。この史料中の「水田試作之景況」表によると、明治26年の反別5反、収穫1石3斗の玄米、27年1反、2石4斗の玄米と記され、28年は年次が示されているが、数値はない。この史料の前に綴られている水害に関する報告書の日付は、明治28年4月14日となっている。ほかの簿書に『明治廿九年拾月起 水田委員出席人名簿』(SKH - 255)があり、29年10月21日~30年5月28日の水田委員の会合や活動が記されて

いる。また『明治二十二年以降 決算報告書綴』(SKH - 177)中の「自明治二十八年至三十年排水溝費収支決算書」中に水田設計委員手当、水田設計測量費が計上されている。「昨年」からの苦勞が排水溝開削のことらしいので、この「昨年」は28年のことで、「理由書」は29年らしい。これらから明治28年から排水工事予算化などが行われ、29年になって「理由書」が作成され、その10月から水田委員の会合や活動が行われている事が推察できる。

上記『水田委員出席人名簿』は、29年10月21日~30年5月28日の委員会の会合、技術者や測量技術者の雇い入れのため札幌への出張、北海道庁から出る補助金と思われる「水田開削預け金」を受け取るための札幌への出張、実際の測量線の踏査などが、それに参加した人名と共に記されている。会合によっては日当も記されている。これら測量や日当などが、上記「排水溝費収支決算書」中にある「水田設計委員手当」、「水田設計測量費」と思われる。

『排水溝費収支決算書』

次いで『明治二十年以降 共有地貸付諸願届綴』(SKH - 191)には、明治29年4月24日付大久保喜一郎の公有地拝借願がある。公有地第740号(添付された略地図から見ると新川に沿った地域らしい)の内3000坪を水田とするために借用を願い出たものである。また日付はないが中山弥作の返地届がある。新琴似公有財産地第23号3000坪を水田とするために借りていたが、「水利上行届兼候二付」返上を届けている。

以上のようなことを『新琴似兵村史』(昭和11

年刊)で確認できるかどうか調べてみた。同書中「水田の試作」「水田熱の勃興から衰亡まで」が水田のことについて記されている。それによると大久保喜一郎については、明治25年に新琴似で始めて自己給与地内の湿潤地で井戸水を利用して水田としたこと、厚別での水田作りのこと、29年に自分の所有地5反と栗原直置の土地2反を作付けしたこと、皆が水田をやめた後も努力したことなどが記されている。しかし上記のような公有地を借用する話は出てこない。

また水田のために灌漑溝を施設することについて記載されているが、それは明治35年からの活動で、上記の28~30年の排水溝開削や水田委員に関する記述はない。水田をやめていくことについては、造田が一時期盛んになったが、やがて意見の違いや大正9年水害などで衰退していったようだ。

これら『新琴似兵村史』の水田に関する記述以外にも新琴似屯田兵村では水田の試みが行われていたようである。

「ふたつの札幌オリンピック展」開催中!

戦前の昭和11年、第12回夏季大会の東京とともに、第5回オリンピック冬季大会の開催地として札幌が選ばれました。開催が決定すると、札幌市民は提灯行列でこれを祝い、新聞には毎日のように関連記事が掲載されました。アジア初の冬季大会開催、しかもボブスレーは当時の日本では未経験の競技だったので、いろいろと苦労もあったようです。このようにオリンピック開催に向けての準備は着々と進んでいきましたが、昭和12年に始まった日中戦争の戦火が拡大し、日本は軍事一色に染められます。そしてついに13年7月、東京・札幌両オリンピックの返上が決定しました。ほんの1年



『幻のオリンピック』ポスター



『幻のオリンピック』プログラム

ほどで、札幌大会は幻となってしまったのです。

このたび文化資料室では、この『幻のオリンピック』の大会プログラムを入手しました。会場の図面や競技のプログラムなど当時の新聞記事からだけでははっきりしないこともわかる貴重な資料です。

このプログラムの入手をきっかけに、『幻のオリンピック』について皆さまに知っていただきたいと、今回の企画展を考えました。また、昭和47年の第11回オリンピック冬季大会開催によって、札幌の街並みがどのように変化していったか、その都市基盤整備の発展状況なども文化資料室所蔵の資料で展示しています。戦前と戦後、ふたつのオリンピックについて、皆さまのご参考となりましたら幸いです。

《開催》7月20日~10月31日まで。

「新札幌市史」機関誌 札幌の歴史 第53号

9月11日(火)から発売開始

特集 札幌の歴史 新たな出発のために 3

函館俘虜収容所と「俘虜収容所月寒分所」

近世イシカリ場所瘡癩流行史ノート - 文化十四年を中心に

山口団体と北海道移住

札幌書道前史 - 書画会から近代書道へ

史料紹介 旧陸軍「北部軍司令部」文書、62年目の出現

『わがまち温故知新』神社が結ぶ土地との縁で、地域の一体感を醸成 - 厚別西厚信会郷土史相談室だより

文化資料室と市政刊行物コーナー(札幌市役所本庁舎2階)でお買い求めいただけます。47~52号も販売中!
【お問い合わせ】*内容については文化資料室へ。
文化資料室(011-521-0205)
市政刊行物コーナー(011-211-2135)

昇平丸船司・浦田伊助のこと

～古文書講座(上級)テキストを読んで～ 森 勇 二

はじめに

私は、札幌市文化資料室主催の平成十八年度古文書講座(上級)を受講した。私に指定されたテキストのうち、「開拓使公文録」(道立文書館所蔵、請求番号5702。以下「開公」と、「略輯旧開拓使会計書類」(道立文書館所蔵、請求番号06326。以下「略開」)を読んで、開拓使附属船・昇平丸の船司交代のいきさつと新船司・浦田伊助について述べてみたい。

一．浦田伊助の経歴

「略開」に浦田伊助の略歴が書かれている。主な経歴は、

- ・生国は「能州地之浦」(現石川県志賀町)。
- ・元治元年、箱館奉行に召出され「慎敬丸」水主として岩内石炭積取に従事。その後、沖の口、常灯明勤番。
- ・慶応三年、「官より御頼有之...鯨漁稽古のため」アメリカ捕鯨船ジャウリーヤ号に乗り組みカムチャッカ、アリューシャン方面で操業。
- ・慶応四年三月箱館帰着。六月箱館丸表役となり、八月出帆、アイロップで難船、樺太・シラヌシで越年。
- ・明治二年六月二十七日、岡本監輔判官を乗せクシュンコタンを出帆、七月十一日箱館着。
- ・同年十月二十九日、昇平丸船司に任命。
- ・明治三年一月二十六日、昇平丸、木の子村安在浜で破船、伊助海死。

二．昇平丸船司交代のいきさつ

開拓使附属船・昇平丸の最初の船長は喜代蔵。昇平丸は、明治二年九月二十一日、品川を出帆、箱館到着は同月二十五日のこと。喜代蔵更迭の経過が「開公」に見える。昇平丸の箱館到着の二日後の十月二十九日、喜代蔵は八木下信之権大主典から「石狩場所へ御米不残運送可致」と仰せ渡されたのに対し、喜代蔵は「雪中二相成、水主帆前働自由不相成候時節」だとして断っている。翌二十七日、廣川信義権大主典から「水先共弥以不被参候哉」と尋ねられたのに対し「いかにも帆前故、水主働方むづかしく候」と渋っている。更に二十九日、再度廣川権大主典から「何連二も石狩迄参候」と再度催促され、喜代蔵はやむなく「参候心得にて前書水主等も夫々心懸ケ候」と石狩行きの準備を始めた。

ところが、十一月二日、開拓使は、「今般、其船乗組之者共差免候二付、船具其外積荷金米共正路二勘定相立、浦田伊助へ引渡可申候事」(略開)と喜代蔵を解任している。喜代蔵は「誠に当惑仕候」と述べている。

「略開」によると、開拓使が浦田伊助へ昇平丸船司を申し付けたのは、十月二十九日だから、開拓使は、廣川権大主典が喜代蔵を二度目に呼び出したその日に、昇平丸船司交代を決めたことになる。開拓使は、石狩行きを渋った喜代蔵を早々に罷免した。昇平丸は「全国的・全道的米不足の状況下では...島判官が石狩で行おうとした事業にとって重要な存在であった」(「新札幌市史」)だけに、一刻も早く米などの積荷の石狩廻漕が求められていたことが察せられる。

浦田伊助が昇平丸船司に選ばれたのは、先に述べた経歴の通り、その経験が買われたからだろう。

おわりに 昇平丸は、「御米壺俵も上陸不仕」(「略開」)木の子村安在浜に沈んだ。浦田伊助始め五名が死亡している。石狩行を渋った喜代蔵に代わって急遽船司になった伊助は、開拓使の期待に答えられず、昇平丸と運命をともした。「溺死者は其場へ葬」(「略開」)られたという。いつか伊助の眠る安在浜を訪ずれてみたい。

*平成19年1月20日、2月17日、3月17日の3日にわたり、古文書講座【上級コース】として「札幌歴史ゼミナール」を開催しました。昨年度は、受講者に個別の史料を選んでいただき、その史料について研究していただくという内容で行いました。

上記は受講者のお一人、森勇二さんに、史料と研究の内容についてまとめていただいた研究ノートです。



行事の開催中は特別開館し、一般の方もご利用いただけます。

2007年度 文化資料室 古文書講座【中級編】古文書を読み、札幌の歴史を学びます。

日時 9月19日(水)、26日(水)の2日間 18:00~20:00
 場所 文化資料室2階 市史会議室
 対象 市内に居住か通勤・通学する、古文書講読中級者の方
 定員 30名(応募者多数の場合は抽選とします)
 講師 榎本洋介(新札幌市史編集員)
 申込締切.....9月10日

❖お申し込み方法❖往復ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号、年齢、ご希望のコース(中級か上級)をご記入の上、下記住所までお送りください。
 注)お電話での申込はお受けできません。

札幌歴史ゼミナール【上級編】札幌の歴史に関する資料を基に個人で研究し、成果を発表するゼミ形式の講座。

日時 1月19日、2月16日、3月15日(全て土曜日)の3日間 14:00~16:00
 場所 文化資料室2階 郷土史相談室
 対象 市内に居住か通勤・通学する、古文書が読めて、研究意欲のある方。
 定員 10名(応募者多数の場合は抽選とします)
 講師 榎本洋介(新札幌市史編集員)
 申込締切.....1月10日

ジュニア・ウィークエンドセミナー



札幌の歴史探検～歴史新聞をつくらう!～

札幌の歴史に詳しい先生の話や、文化資料室にある写真・地図などを使って、「札幌の歴史新聞」をつくらう!

対象 小学校4年生～中学生
 定員 12名(応募者多数の場合は抽選とします)
 場所 文化資料室2階 郷土史相談室
 時間 10:00~12:30
 講師 榎本洋介(新札幌市史編集員)

開催テーマ(テーマ、開催日、申し込みきり)

- さっぽろの足(交通).....10月27日(10月19日しめきり)
- 札幌と動物.....12月8日(11月30日しめきり)
- 耐雪から楽雪へ.....2月2日(1月25日しめきり)

❖お申し込み方法❖

官製ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号、学校名、学年、希望の回をご記入の上、下記住所までお送りください。お電話でのお申し込みも受け付けております。

文化資料室 利用のご案内

開館時間 8:45~17:15
 休館日 土・日・祝日・年末年始(12月29日から1月3日)
 入館料 無料
 郷土史相談室・札幌の歴史展示室がご利用になれます
 ご来館の際は公共交通機関でお越しく下さい



交通アクセス / 東豊線「豊水すすきの」駅下車6・7番出口から徒歩3分、または南北線「中島公園」駅下車1・2番出口から徒歩5分



文化資料室ニュース 第3号・2007年8月

発行 札幌市文化資料室 〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目

Tel・文化資料室事務室 011-521-0205・市史編集室 011-521-0206・郷土史相談室 011-521-0207

Fax・011-521-0210 E-mail・shiryoshitsu@city.sapporo.jp URL・http://www.city.sapporo.jp/bunkashiryo/